

## 森林管理計画

### 森林の概要

三井物産(株)は国内に 75 ヶ所、45,412 ヘクタールの社有林を保有しています。

その内訳は、北海道に 28 ヶ所 35,709 ヘクタール、本州に 44 ヶ所 9,469 ヘクタール、

九州に 3 ヶ所 234 ヘクタールです。

全 75 ヶ所、45,412ha の社有林を以下に区分して管理しています。

(2024 年 3 月末現在)

森林管理区分		面積(ha) 合計 45,412
循環林(人工林)		5,830
天然生誘導林(人工林)		8,782
生物多様性保護林 (人工林・天然生林 及び天然生誘導林)	特別保護林	324
	環境的保護林	846
	水土保護林	3,460
	文化的保護林	117
有用天然生林(天然生林)		15,887
一般天然生林(天然生林)		6,370
その他(天然生林及び除地など)		1,303
分収造林地(人工林)		2,493

それぞれの区分ごとの管理方針は以下のとおりです。

### 「循環林」

林業等の目的により人工的に伐採され、基本的に新植-保育-伐採を繰り返す林地で、貴重な国産の再生資源である木材資源の生産と供給を行います。主要な樹種は北海道では、カラマツ、トドマツ、本州以南ではスギ、ヒノキで、樹種ごとに標準伐期齢を定めています。

### 「天然生誘導林」

人工林に間伐・択伐を行うことにより、長期育成させ大径木の生産を目指す林地です。間伐・択伐を行う際は、広めの樹間距離とすることで、合間に広葉樹等の自生を促し、針葉樹と広葉樹の混交林となる天然生林状態に誘導します。

### 「生物多様性 特別保護林」（保護価値の高い森林）

生物多様性の価値が非常に高く、かけがえのないものと判断され、厳重に保護し、その保護状況をモニターしている林地です。

### 「生物多様性 環境的保護林」

希少な生物が存在するなど、生物多様性の価値が集中している林地で、原則として保護しますが、環境影響を評価しつつ林産物の収穫をすることがあります。

### 「生物多様性 水土保護林」

山地崩壊防止等不可欠な公益的機能を提供することにより、水土を保護し生態系を保全する林地で、原則として保護しますが、環境影響を評価しつつ林産物の収穫をすることがあります。

### 「生物多様性 文化的保護林」

地域共同体が持つ基本的需要（生活、健康、食料、水など）に欠かせない場所、また地域社会あるいは先住民族にとり非常に重要な場所として認められる林地で、原則として保護しますが、文化的活動のために林産物の採取を行うことがあります。

### 「有用天然生林」

木材利用上の有用樹種があり、間伐・択伐、下種更新などにより持続的育成を図る林地で、将来的には収穫を目指します。

### 「一般天然生林」

有用樹種ではありませんが、伐採、除伐、蔓切などの保育を行いながら、公益的価値を高めていく林地です。

### 「その他」

除地などの上記以外の天然生林です。

### 「分収造林地」

国立研究開発法人 森林研究・森林整備機構 森林整備センター(以下「森林整備センター」という。)と締結した長期の分収造林契約林地です。森林整備センターと協議の上、保育ならびに林産物の収穫を行います。

## 管理と施業

(管理)

三井物産社有林の管理方針については、ホームページの[「森林経営の考え方」](#)をご参照ください。社有林は、森林が持つ多様な機能を守り育て、「持続可能な森林」を実現するための適切な森林管理を行っています。貴重な自然資本を預かるものとしての社会的責任を果たすべく、長期間に亘り、必要な施業を適切に実施しています。

(施業とモニタリング)

2023年度の素材の収穫実績は約 39,000 立方メートルで、蓄積量・成長量と比較すると以下の通りです。

単位:m<sup>3</sup>

樹種	北海道	本州・九州	合計
	数量	数量	数量
マツ丸太	4,183	0	4,183
カラマツ丸太	8,744	0	8,744
スギ丸太	3,380	4,890	8,270
ヒノキ丸太	0	1,972	1,972
広葉樹丸太	187	0	187
パルプ用丸太	3,503	0	3,503
木質バイオマス原料	11,410	0	11,410
その他素材	188	726	914
計(収穫量)	31,595	7,588	39,183
蓄積量	6,482,648	2,028,147	8,510,795
成長量	97,323	20,683	118,006

三井物産フォレスト(株)では 58 名の人員を雇用（2024 年 4 月現在）しているほか、遠隔地の山林については地元の個人・森林組合との管理契約や、森林組合・企業との施業委託などで地元経済に貢献しています。ちなみに 2023 年度の受託事業費は約 5 億円で、毎年度末に計画と実績を比較しモニタリングを行っています。

#### （法令遵守）

三井物産グループ行動指針に則り、法令を遵守し、環境や事業に関するあらゆる法令を守ると共に、環境への影響を考慮しながら、企業活動と環境保全の両立を図ります。また、行動指針に反するおそれがある行為を発見したときは、速やかに関係部署に報告・相談し、協力を求められた場合には、積極的に協力します。報告・相談を行った人などに対しては、そのことを理由として不利益な扱いや、報復行為が行われることは有りません。

#### （労働者の権利、男女平等）

下請け業者も含め労働者の社会的、経済的福利を向上するべく、労働者の権利、男女平等に配慮しています。三井物産グループ行動指針である With Integrity に基づき、社内規程は人権を尊重し、いかなる差別も行わないことを前提の下に構成されています。また三井物産(株)の人権方針では、国連グローバルコンパクトの 10 原則を支持することを掲げており、弊社も三井物産グループとして本方針に従い、役職員行動規範に国連グローバルコンパクト 10 原則を指示することを掲げています。社内のコンプライアンスについては、社外相談先を含めた内部通報制度を設けるとともに、コンプライアンス委員が毎月行動指針に関連する情報を周知し、問題の発生を未然に防止するよう努めています。

### (労働安全)

三井物産社有林内での作業は、社内安全衛生基準に基づき実施しています。年に1回、全社的に安全衛生大会を開催して安全意識の高揚を図っているほか、全社の基準に従って、各山林事務所で下請け作業者をも含めて、安全教育訓練活動や安全衛生パトロールを実施しています。安全衛生パトロールでは、5S運動、指差し呼称、安全な服装の着用、保護具の装着等がチェックされ、各作業現場での安全の維持に努めています。

### (社会とのかかわり)

三井物産と三井物産フォレストは、良き企業市民として地域社会などと調和を図り、ステークホルダーとの信頼関係を築き、豊かで住み良い地域社会の実現のために積極的に社会貢献を推進し、持続可能な社会の実現に努めます。

具体的には、社員に対する森林体験プログラム、一般市民向けの森林体験プログラム、生物多様性の確保や研究、再生可能な天然資源たる木材生産の持続可能性の追求などに一層力を入れていくこととし、また、利害関係者との協議を重ね、透明性の高い森林管理を行うよう努めています。利害関係者からの苦情等が発生した場合、利害関係者苦情等通知書・対応書を作成し、迅速に対応することとしています。

## **北海道における施業**

### (施業、施業技術とモニタリング)

三井物産社有林の約80%、面積にして約35,700ヘクタールが北海道内28ヶ所に山林が

所在しています。うち 45%約 16,300 ヘクタールが制限林で、水源涵養保安林、土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林、砂防指定地、地滑り防止林、鳥獣保護区などとなっています。水源涵養保安林内では森林整備センターとのトドマツ、カラマツ主体の分収造林地約 2,800 ヘクタールを分収契約しています。また、周辺地域の概要は他社所有山林、農地、河川、道路となっています。

北海道には一団地で 10,000 ヘクタールを越える沼田山林をはじめとして、沙流山林 5,800、似湾山林 4,800、浦幌山林 2,600、宗谷山林 2,000、恵山山林 1,200、初山別山林 1,100 といった大型の山林がありますが、経営効率もよく、地形の緩やかなエリアでは早くから大型の林業機械を導入し、北海道の適地適木であるカラマツ、トドマツなどを主体に循環林施業を行っています。

天然生林においては、広葉樹ほか有用樹種の育成と蓄積の増大を目的に、補助制度を利用して林相改良を行っています。道南のブナや十勝地区のミズナラ、そして、胆振・日高地区においては北海道の有用樹種が数多く存在し、今後が期待されています。

年間成長量は森林調査簿から合計 97,323m<sup>3</sup> であり、これに対する 2023 年度の木材生産量は 31,595m<sup>3</sup> で、成長量の範囲内で伐採を実施しています。

林業機械としては、ハーベスタ 6 台、フェラーバンチャ 2 台、グラップル 9 台、フォワーダ 2 台、ブルドーザ 4 台などを保有（2024 年 4 月時点）しています。主な作業システムはハーベスタ・チェーンソーによる伐倒、ブルドーザによる集材、ハーベスタ・チェーンソーによる玉切りとなっています。路網はヘクタールあたり平均 35m となっています

が、生産性の高い山林では 70m となっており、高性能林業機械でほぼ対応できる体制となっています。

(社会とのかかわり)

札幌、平取、帯広にある三井物産フォレスト(株)の山林管理事務所に職員 25 名、平取・帯広にある事業所に現業社員 10 名 (いずれも 2024 年 4 月現在) を雇用しているほか、空知、留萌、後志、渡島管内等で現地森林組合や直接下請け業者に事業を発注しています。

2020~2021 年の期間はコロナウイルス感染拡大の影響により森林体験プログラムを実施できませんでしたが、2022 年には似湾乙山林にて、三井物産(株)北海道支社および関係者 15 名を対象に間伐体験、トドマツの植栽体験などを実施したほか、石井山林では、2022 年に引き続き 2023 年にも北の森づくり専門学院の学生および引率者 38 名を対象に石井山林の代名詞でもある高密度路網や天然更新を活用した長伐期非皆伐型林業についての説明や先代カラマツの視察を実施しました。

(アイヌ民族とのかかわり)

平取町の沙流山林においては、名勝ピリカノカとして指定されているエリアをアイヌ民族にとって重要なサイトとし、文化的保護林に設定しています。

沙流川流域は、特に重要な景観地として国の重要文化的景観に指定されています。また、21 世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクト活動の一環で、フクロウの持続的な生活空間の拡充のための取り組みも行っています。



三井物産の森の在り方や施業についてアンケートを行うなど、アイヌ協会と協力のための協議を続けています。

## **本州・九州における施業**

(施業、施業技術とモニタリング)

本州以南では、47 山林合計面積約 9,700 ヘクタールですが、一団地で 1,000 ヘクタール程度の山林は三重県の三戸山林と福島県の田代山林、岐阜県の水沢上山林に分散しています。うち制限林は約 6,200 ヘクタールで、水源涵養保安林、土砂流出防備保安林、砂防指定地などとなっています。全般的に斜面の傾斜角度が大きいため、どうしても経営効率が悪くなっています。

本州以南では、以上の急傾斜や経営効率悪化のことから、本州の適地適木であるスギ、ヒノキを主体に天然生誘導林として管理をしています。循環林として管理されている社有林は三戸山林および水沢上林の 2 ヶ所のみとなります。

また、周辺地域の概要は他社所有山林、河川、道路となっています。2023 年度の蓄積量は、2,028,147m<sup>3</sup>であり、成長量は 20,683m<sup>3</sup>、これに対する木材生産量は 7,588m<sup>3</sup>となっています。当社の本州山林で実施している主な作業システムは、チェーンソーによる伐倒、スイングヤードによる木寄せ、チェーンソーによる玉切り、フォワーダによる搬出となっており、場所に応じて架線集材を行う場合もあります。三戸山林や、秋田県の大庫沢山林などでは、高性能林業機械を利用し革新的施業技術等取組支援事業を活用して施業

が行われております。

(社会とのかかわり)

高層湿原が尾瀬国立公園となっている田代山林、世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道に登録されている大峯奥駈道に隣接する高原山林、東海自然歩道や愛宕山参詣道に接する清滝山林、周辺の学校の校歌にも歌われ貴重なブナ林を残す南葉山林など、生物的、文化的に重要な山林を保全管理しています。田代山林には最寄りの登山口（猿倉口）から、2023年5～10月の間に約3,200人の登山者が入山しました。その他にも南葉山林の登山口にあるキャンプ場にも毎年多くの方が訪れることから、登山道の敷地を自治体にそれぞれ無償で貸与しています。

山林管理事務所は名古屋に所在がある本州事業部および本州事業部管轄である長島山林事務所合わせて職員7名、長島山林事務所の現業社員4名（いずれも2024年4月現在）を雇用しているほか、遠隔地の山林では、現地の森林組合や林業事業体に業務を発注しています。

本州以南で最も歴史の古い三戸山林には、歴代の三井物産社長や役員が記念植樹を実施しております。また2022年の東京都中央区主催のエコまつりでは、三戸山林のヒノキの端材から抽出した精油を使用したアルコール消毒スプレーを来場者へ配布しました。

城ヶ岳山林では、2023年に三井物産(株)九州三栄会主催の社員や関係者を対象とした森林体験プログラムも実施し、千葉県亀山山林では、東京に近く、交通至便という地の利

を生かして、社員や一般の方を対象とした森林体験プログラム、間伐体験などを多数実施しています。

## **生物多様性の保全とモニタリング**

(林内作業に対する社会・環境リスク調査)

三井物産の森の周辺には他者所有山林や河川、道路、住宅があります。隣接土地所有者や所在地自治体、権利を有する先住民族をはじめ、林内作業によって影響を受ける可能性がある利害関係者を特定しています。また保護価値の高い森林の有無についても見直しするべく、現在利害関係者への聞き取り調査を行っています。

また、林内作業は周辺の広範囲に環境的影響を与える可能性があります。主伐、間伐、路網開設など、林内の作業を計画した際には、事前に必ず現地を踏査してチェックリストに基づいた調査を行うこととしています。チェックリストには、土壌状況、地表植生等、林内状況、周辺状況などの24のチェック項目があり、調査結果に応じて、実施・一部保存の上実施・一部区域変更・中止の決定を行うこととしています。

また、作業を実施した後には、3か月以内に必ず再踏査してチェックリストに基づいて調査を行うこととしています。チェックリストでは計画評価、作業評価など17の項目について、適切、不適切、該当なしの判断を行っています。

(自然災害のリスク)

近年、風害や水害などの自然災害のリスクが高まっており、各地で森林被害が発生しています。

三井物産の森では、安全を第一としながら、できる限り速やかに被害地を整理し、森林の健全な再生を促しています。

また、施業による環境への影響を減らすため、事前に保護が必要な場所を特定するとともに、水辺林の保護に取り組んでいます。特に主伐地では、伐採後2年以内に植栽するなど、災害リスクを減らすように努めています。作業道などの設置に際しては、可能な限り外来種の導入を避け、工作物に生物系資材を利用するよう努めています。

福島県の田代山林に隣接する環境省管理地域に於いて発生している大規模崩落は、貴重な高山湿原地帯まであと100mのところまで進んでおり、今後の動向を注視していきます。

#### （生態系モニタリング）

希少種の生息状況や山林の規模に応じて、山林事務所ごとに3箇所を基本としてプロットを設定し生態系モニタリング調査を実施しています。調査は年一回（蓄積調査については5年に一回）実施され、地表状況調査（希少種、動植物）・林内状況調査（樹種、本数、獣害等）・蓄積調査（胸高直径、樹高、成長量）などを調査しています。

尚、特別保護林（保護価値の高い森林）である福島県の田代山林では、2024年6月の山開きでは前年と同様に安全祈願祭が執り行われ、それに併せて巡視も行いました。山頂の高層湿原でのシカによる植生被害も2019年から増加傾向にあるので、引き続き生態系への影響について動向を注視していきます。

各山林で、希少種が発見された場合は、特に植物の場合はマーキングを行い、施業範囲から外すなどの対策をとっています。

生態系モニタリング 蓄積量変化

管轄事務所	山林名	施業区分	樹種	植栽年	プロット面積	蓄積調査 (m <sup>3</sup> )									
						2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
第一事業部	宗谷	天然生林	天然生林	-	0.05 ha	-	-	-	21.66	-	-	-	-	20.75	-
	枝幸	循環林施業	アカエゾ	1998	0.05 ha	-	-	-	4.44	-	-	-	-	4.98	-
	浜頓別	循環林施業	トドマツ	1960	0.05 ha	-	-	-	28.14	-	-	-	-	17.93	-
	初山別	循環林施業	トドマツ	1970	0.05 ha	-	-	-	24.93	-	-	-	-	31.34	-

	羽幌	循環林施業	グイマツ雑種F1	2016	0.05 ha	皆伐によりプロット消失	-	新植地にプロット再設定	-	-	-	-	-	-	-
	沼田	天然生林	天然生林	-	0.05 ha	-	-	-	16.45	-	-	-	-	18.55	-
平取	似湾	循環林施業	上層カラマツ(下層アオダモ)	1957(2002)	0.05 ha	-	-	15.36	-	-	-	-	19.12	-	-
	似湾乙	循環林施業	カラマツ	2008	0.05 ha	-	-	0.92	-	-	-	-	4.69	-	-
	穂別	天然生林	天然生林	-	0.05 ha	-	-	10.50	-	-	-	-	9.76	-	-

帯 広	十 弗	天 然 生 誘 導 林	シ ラ カ バ	1 9 5 6	0. 05 ha	8.330	-	-	-	-	14.13	-	-	-	-
	茶 安 別	天 然 生 林	天 然 生 林	-	0. 05 ha	30.06	-	-	-	-	35.23	-	-	-	-
	浦 幌	循 環 林 施 業	カ ラ マ ツ	1 9 5 2	0. 05 ha	17.34	-	-	-	-	20.42	-	-	-	-
	石 井	天 然 生 誘 導 林	ト ド マ ツ	1 9 6 2	0. 10 ha	69.32	-	-	-	-	77.38	-	-	-	-
本 州 事	田 代	天 然 生 誘 導 林	カ ラ マ ツ	1 9 5 9	0. 05 ha	-	-	-	21.63	-	-	-	-	-	38.3

業部	亀山	天然生誘導林	ヒノキ	1971	0.05 ha	-	-	-	18.00	-	台風被害によりプロット再設定	29.68	-	-	-
	ヤカンバタ	天然生誘導林	スギ	1967	0.05 ha	-	-	28.27	-	-	-	-	30.41	-	-
長島	三戸	循環林施業	ヒノキ	1981	0.05 ha	-	-	13.31	-	-	-	-	-	-	11.75
	三戸	天然生林	天然生林	-	0.01 ha	-	-	0.74	-	-	-	-	-	-	0.66
	志摩	天然生誘導林	スギ・ヒノキ	1962	0.05 ha	-	-	23.97	-	-	コロナの影響により調査中止	-	-	-	30.0



## 社有林 生態系モニタリング調査（天然生林構成）

山林	構成樹種
宗谷	エゾマツ、トドマツ、イタヤカエデ、ミズナラ、シラカバ
沼田	トドマツ、キハダ、オヒョウニレ、シナノキ、イタヤカエデ、ミズナラ、センノキ、ハンノキ、ナナカマド、シラカバ
穂別	コナラ、アサダ、サワシバ、イタヤカエデ、ハクウンボク、アズキナシ、ヤマモミジ、ヤマザクラ、オオバボダイジュ
茶安別	トドマツ、シナノキ、ホオノキ、イタヤカエデ、ヤマモミジ、アサダ、アオダモ、ミズナラ
三戸	ヒノキ、アカマツ、ウバメガシ、ソヨゴ、クロバイ、アカガシ、カクレミノ、ネジキ、シイ

また、天然記念物・絶滅危惧種・希少種が発見された場合、その植物、動物、鳥類等の数や保全措置に関して記録を行っています。

## 社有林で発見（撮影）された動植物・昆虫

年度	動植物・昆虫
2015	クマゲラ（4月沙流）、モクレン（4月浦幌）、アナグマ（4月三戸）、タチツボスミレ（4月三戸）、カタクリ（4月沙流）、アミガサダケ（4月三戸）、エゾエンゴサク（4月似湾）、トンビ（4月三戸）、エゾオオサクラソウ（5月浦幌）、キタキツネ（5月茶安別）、ヤマツツジ（5月三戸）、クマタカ（5月沙流）、エゾキスゲ（6月田代）、サワガニ（6月三戸）、クワガタ（6月沼田）、シラネアオイ（6月南葉）、ギンリョウソウ（6月南葉）、マムシソウ（7月亀山）、ニッコウキスゲ（7月田代）、オカノトラノオ（7月浦幌）、キタキツネ（7月沙流）、オオカメノキ（7月泊）、ガクアジサイ（7月三戸）、トンビ（8月三戸）、ヤマカガシ（8月三戸）、カワトンボ（8月三戸）、エビネ（9月亀山）、シマリス（9月浦幌）、カマキリ（10月亀山）、アカゲラ（12月浦幌）、エゾライチョウ（1月浦幌）、エゾリス（1月沼田）、ザリガニ（2月亀山）

2016	フクジュソウ (4月浦幌)、ニリンソウ (5月石井)、オオルリ (5月羽幌)、クリンソウ (6月石井)、ヤマシャクヤク (5月似湾)、エゾハルゼミ (6月似湾)、ギンリョウソウ (6月錦)、ツルアジサイ (6月君田)、ニホンカワトンボ (6月君田)、ミズキ (6月君田)、ハグロトンボ (7月金目)、キソウメンタケ (7月金目)、ホンシュウジカ (8月三戸)、エゾリンドウ (8月田代)、キンコウカ (8月田代)、モリアオガエル (8月金目)、オニアザミ (8月浜頓別)、マルハナバチ (8月浜頓別)、キタキツネ (9月下頓部)、イノシシ (9月三戸)、ミツバチ (10月三戸)、ニホンカナヘビ (10月似湾乙)、サワガニ (10月錦)、ジョロウグモ (11月亀山)、ニホンイタチ (2月三戸)、イノシシ (2月三戸)
2017	ホンシュウジカ (4月三戸)、アライグマ (4月沙流)、ポタンサクラ (4月三戸)、エゾエンゴサク (4月似湾)、カタクリ (4月恵山)、ミズバショウ (4月知内)、キタキツネ (4月似湾乙)、エゾヒグマ (5月沙流)、アシナガバチ (5月亀山)、エビネ (5月亀山)、サラサドウダンツツジ (6月恵山)、エビネ (6月知内)、サップロフキバツタ (6月沙流)、ミヤマクワガタ (7月似湾乙)、ラップシメジ (7月沙流)、エゾサンショウウオ (7月沙流)、ベニナギナタタケ (8月高原)、リンゴドクガ (幼虫) (8月恵山)、スズメバチ (9月似湾)、サクラマス (9月沙流)、コバノミツバツツジ (11月清滝)
2018	エゾモモンガ (1月穂別)、エゾシカ (2月知内)、アセビ (3月三戸)、カタクリ (4月恵山)、イチゲ (4月知内)、ヒメアオキ (4月泉沢)、キジ (4月三戸)、エンレイソウ (4月茂辺地)、エゾエンゴサク (4月似湾乙)、フクジュソウ (4月似湾乙)、タヌキ (4月似湾)、シラネアオイ (5月恵山)、タチツボスミレ (5月恵山)、ハリギリ (5月初山別)、ミズバショウ (6月沼田)、キタキツネ (7月似湾乙)、コクワガタ (7月似湾乙)、エゾハルゼミ (7月恵山)、ヒオウギ (8月美山)、ヒグマ (8月大野)、カエル (8月沙流)、テングタケ (9月清滝)、エゾリス (9月浜頓別)、フサヒメホウキタケ (10月三戸)、ヒグマ (10月大野)、エゾシカ (10月恵山)、ヒグマ (11月似湾)、ムラサキシキブ (11月大鱈)、フキ (3月似湾)
2019	ヒグマ (4月初山別)、エゾサンショウウオ (4月沙流)、ルリセンチコガネ (4月志摩)、ギンリョウソウ (5月美山)、ニホンカワトンボ (5月三戸)、アカハライモリ (5月三戸)、タニウツギ (5月泉沢)、ミツバウツギ (5月泉沢)、イタヤカエデ (6月似湾)、ムラサキカタバミ (6月三戸)、カブトムシ (7月三戸)、オニユリ (7月似湾)、トカゲ (7月三戸)、カマキリ (7月三戸)、ガクアジサイ (7月大野)、スズメバチ (7月三戸)、イノシシ (7月三戸)、コクワガタ (8月三戸)
2020	オオワシ(1月沙流)、テントウムシ(2月三戸)、ホンシュウジカ(4月三戸)、キツネ(5月似湾)、ヒキガエル(6月三戸)、マムシ(6月伊賀)、ミヤマクワガタ(6月三戸)、アシナガバチ(7月沙流)
2021	シャクナゲ(4月三戸)、ヤブツバキ(4月清滝)、ホンシュウジカ(4月三戸)、キタキツネ(5月似湾)、ヒキガエル(6月三戸)、マムシ(6月伊賀)、ミヤマクワガタ(6月三戸)、キタキツネ(7月似湾)、アシナガバチ(7月沙流)、ヤマモモ(7月三戸)、エゴマ(8月三戸)、クルマユリ(10月恵山)、ウサギ(10月三戸)、アオダイショウ(10月沼田)、エゾタヌキ(11月泊)、ハイタカ(12月三戸)、クチベニタケ(1月三戸)、

2022	<p>キタキツネ(5月似湾)、フクジュソウ(5月浦幌)、アナグマ(5月三戸)、マルミノヤマゴボウ(5月三戸)、トカゲ(5月三戸)、フジ(5月三戸)、ナメクジ(6月大野)、タニウツギ(6月古丹別)、キタキツネ(6月十弗)、ヤマシャクヤク(6月十弗)、ヒグマ(6月大野)、クロモジ(6月知内)、ヤマツツジ(6月金丸)、ミヤマクワガタ(7月大野)、タマゴタケ(7月大野)、ヤマシャクヤク(8月十弗)、タマゴタケ(8月恵山)、ナンバンギセル(9月三戸)、マツカゼソウ(9月鈴鹿)、モクスガニ(10月三戸)、キンモクセイ(10月三戸)、フキノトウ(2月三戸)、オオワシ(2月枝幸)、サクラ(3月三戸)</p>
2023	<p>エゾタヌキ(4月浦幌)、ミズバショウ(4月知内)、ウバメガシ(4月国王山)、シイタケ(4月美山)、エゾエンゴサク(5月沙流)、フッキソウ(5月似湾)、キタキツネ(5月似湾)、エゾヤマザクラ(5月石井)、エゾオオサクラソウ(5月石井)、コクワガタ(6月十弗)、ウツボグサ(6月沼田)、アミガサタケ(6月大野)、コケイラン(6月大野)、ギンリョウソウ(6月大野)、ウスタケ(6月大野)、ササバギンラン(6月大野)、ルリハムシ(6月大野)、エゾタツナミソウ(7月大野)、アカアシクワガタ(7月十弗)、マイマイガ幼虫(7月沼田)、ブナ(7月大野)、スジクワガタ(8月浜頓別)、アジサイ(8月沼田)、ウド(8月沼田)、ニホンカナヘビ(9月沙流)、カミキリムシ(9月初山別)、エゾシカ(9月宗谷)、トノサマバツタ(9月初山別)、アオダイショウ(10月沙流)、ハナイグチ(10月沙流)、ヤマアカガエル(10月亀山)、キタキツネ(10月枝幸)、アカヤマドリ(10月知内)、シロオニタケ(10月知内)、ホウキタケ(10月知内)、ムラサキフウセンタケ(10月知内)、タマゴタケ(10月大野)、アメマス(11月恵山)、アカネズミ(11月沼田)、ハンミョウ(11月恵山)、エゾシカ(12月沼田)、アライグマ(3月似湾乙)、キタキツネ(3月初山別)</p>
2024	<p>オオカメノキ(4月恵山)、シラネアオイ(4月恵山)、フクジュソウ(4月恵山)、カタクリ(4月恵山)、ギョウジャニンニク(4月恵山)、イチゲ(4月知内)、エゾエンゴサク(4月知内)、エゾエンゴサク(5月沙流)、オタマジャクシ(5月十弗)、キタキツネ(5月初山別)、アシナガバチ(6月沙流)、エゾアカガエル(6月沙流)、エゾハルゼミ(6月十弗)、ウド(6月十弗)、クマノミズキ(6月槻木)、ミズバショウ(6月田代)、ムラサキヤシオツツジ(6月田代)、ニリンソウ(6月石井)、ヒトリシズカ(6月石井)、フデリンドウ(6月石井)、シマヘビ(6月大江)、ニホンアマガエル(6月知内)、ワラビ(6月羽幌)、ヤマウルシ(6月大野)、ミヤマエンレイソウ(6月大野)、オオバミゾホオズキ(6月大野)、シラネアオイ(6月大野)、クルマバソウ(6月知内)、ヤマシャクヤク(6月知内)、ギョウジャニンニク(6月知内)、エゾシカ(6月似湾乙)、</p>

## 結び

森林経営は最低でも 50 年周期という息の長いもので、森林経営の主目的も用材の確保から社会貢献へと時とともに変わってきていますが、三井物産はその時々々の収益に一喜一憂することなく、不変的な価値を目指しています。そのためにも森林が持つ多様な機能を守り育て、「持続可能な森林」を実現するための適切な森林管理に努めていきたいと思えます。

以上

### 森林管理計画ほかに関するお問い合わせ先

三井物産フォレスト(株)ホームページ内の以下「お問い合わせ」ページからお願い致します。

お問い合わせ (<https://www.mitsui-forest.co.jp/inquiry/>)

※お問い合わせ項目から「その他お問い合わせ」をお選び頂き、ご用件、お名前、ご連絡先（Eメール）を記載の上、お問い合わせください。当社対応手順に基づき、速やかに担当者からお返事させていただきます。

※当社管理山林において倒木が発生し道を塞いでいるなど、当社管理山林でお気づきの点が御座いましたら、こちらの「お問い合わせ」フォームよりご連絡ください。